

レポート／松田清人（大学院生）／5月25日 松村克彦様

「今の日本にはDX化は絶対必要」

「サイボウズで培ったワザで福祉と行政とITをつなぐ」ご講演ありがとうございました。私は、製薬企業に43年間勤め、今年1月に退職し、大学院2年生として勉強しています。昨年までノーベルファーマという会社に勤めていましたが、朝はサイボウズを立ち上げることから始まりました。社長以下全従業員（約300名）のスケジュールが載っており、関係ある人とのスケジュール調整が主な目的です。サイボウズの「チームワークあふれる社会を創る」という存在意義を知り、なるほど！と、当時を思い返したところです。これなくしては業務が、スピードをもって回らないと思います。“優れもの”であることは間違いないと断言できます。

昭和54年に大阪道修町の武田薬品に入社しましたが、まさしく「ザ昭和」でした。「サイボウズのワザ3」の図にあるように、風土の上に制度がのっかっており、ツールなどなかった時代です。デントクの機能がある卓上計算機が「資産」計上管理されていた時代です。お役所が風土と制度でがんじがらめになっている様子がお話の中からよくわかりました。民間はトップが変われば変わる、ある意味トップ次第だ。ということも経験してきたところだから理解できます。「組織体はトップで99%決まる」という言葉もありますが、「役所は民間とは存在目的が違う組織だからいたしかたない」ということも眼からウロコでした。

サイボウズのワザ4は、「やるべき」ことを、個人の動機づけが高まるように「やりたい」ことに繋げる、そして「できた」らモチベーションが高まり、次への挑戦につながる。そのためには「自主性」を大切に。一連の流れだと認識しました。私も同じように考えています。

日本ではDXが進まない。今、マイナンバーカードの不具合が喧しく報道されていますが、「だからいわんこっちゃない。拙速に進めたからだ。とどまるべき」という論調で報道されているのではないかと危惧を持っています。今の日本にとってデジタル化は絶対必要だと確信しています。例えば医療の世界では、日本全国が一つのバーチャル病院になり、各国民が一つのカルテで管理されていたらと考えます。

それを阻んでいるのがいろいろありますが、究極のところ、国民性や培われてきた風土が根底にあるのではないかと。しかし、人は環境が変われば考え方も変わってきます。デジタル化をすすめれば、トランスフォーメーションは、遅れてついてくると考えます。

就任されてちょうど1年、いまだ「楽しい」状況にはない。でも、知らない世界をのぞける、

刺激も多いという「面白さ」はあるとのご感想でした。何よりご講演を通じて「熱意」と「エネルギー」を感じました。チームワークあふれる世田谷区を目指して、「自分が辞めても残るものを創りたい」という思いが実現しますことを心より祈念いたします。

松田清人